

事業番号	05 07 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	難病及びその他疾病対策事業	部局	健康福祉部	課・室	保健・疾病対策課		
		実施期間	H6 ~	E-mail	hoken-shippei@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係							
重点目標	⑦健康寿命						
総合的に展開する重点政策	4-3 医療・介護提供体制の充実						

## 1 現状と課題

- ・発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない、希少な疾病であって、長期の療養を必要とする「難病」の患者に対して、療養生活環境の整備や「指定難病※1」に対する医療費助成等を行ってきている。
  - ・2021年県民の死亡原因の24.8%※2を占める循環器病や国民の約二人に一人が有していると言われるアレルギー疾患等、県民の生命や健康を脅かすさまざまな疾病が存在する。
- ※1客観的な診断基準が確立しており難病法で指定されている疾病 ※2心疾患14.3%、脳血管疾患8.8%、大動脈瘤及び解離1.7%の計

## 2 事業目的

- ・難病を含む各疾病の患者が安心して療養生活を送れる社会を構築する
- ・県民が各疾病を理解し、その予防に努め、罹患数及び死亡数を減少させる
- ・各疾病に対し、病期に応じて質の高い医療が提供される体制を整備する

## 3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

### ①難病対策の推進

- ・指定難病等の患者の医療費負担を軽減するため、医療費の一部を助成
- ・難病患者が適切な治療を受けながら療養生活を送れるよう、難病に係る医療提供体制、相談体制を整備

### ②その他疾病対策の推進

- ・県民の疾病に対する理解や関心を高めるため、啓発活動を実施
- ・疾病を発症しても社会復帰できるよう、治療と仕事の両立支援等の啓発活動を実施

### ③骨髄等提供の推進

- ・骨髄バンク登録者数の増加に向け、関係団体と協力し啓発活動等の登録促進活動を実施
- ・ドナー候補の提供辞退を防ぐために、骨髄等提供時のドナー等に対する市町村助成金の一部を補助

## 4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度 目標値	達成 状況	設定理由
			実績		実績	推移	実績	推移			
①	難病相談支援センター及び保健福祉事務所における患者支援件数（相談・交流・研修等）	件	6,633		8,437	↗	8,302	↘	6,500.0	達成	令和2年度の実績程度で推移することが、難病患者等が相談しやすい体制の判断根拠となると考えて設定。
②	難病患者等ホームヘルパー養成研修受講者数（累計）	人	1,433		1,473	↗	1,508	↗	1,513	未達成	難病患者が安心して療養生活を送れるためには、知識のある支援者の増加（育成）が必要と考えて設定。
③	対象人口千人あたりのドナー登録者数 ※対象人口（18歳～54歳）	人	6.03		6.03	→	6.47	↗	6.05	達成	ドナー登録者数の増を目指している中、年齢制限により減少する者を上回る新規登録者が必要であるため、現状よりも数値が改善する必要があると考えて設定。

## 5 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R4年度	0	2,477,636	414,754	2,892,390	1,464,162	2,862,597	25.2
R3年度	0	2,347,557	418,068	2,765,625	1,398,245	2,723,676	25.2
R2年度	0	2,197,921	436,309	2,634,230	1,111,136	2,604,181	25.2

事業番号	05 07 03	事業改善シート（令和4年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	難病及びその他疾病対策事業		部局	健康福祉部	課・室	保健・疾病対策課

## 6 主な取組実績と成果

### ① 難病対策の推進

- ・指定難病等の治療に係る医療費の自己負担分（患者一部負担額を除く）の公費負担により、患者の経済的負担の軽減を図った。
- ・保健福祉事務所、難病相談支援センターに、相談窓口を設け、難病患者の相談支援を実施。また、令和4年10月に長野県立こども病院を難病診療分野別拠点病院に指定し、小児期の難病医療提供体制の強化に努めた。

### ② その他疾病対策の推進

- ・県民の脳卒中に対する理解や関心を高めるため、「世界脳卒中デー」に合わせたライトアップやWEB広告により、脳卒中の症状に関する情報を発信。
- ・県民のアレルギー疾患に対する理解や関心を高めるため、アレルギー疾患拠点病院と共催で、県民を対象に「信州アレルギー市民フォーラム2022」を開催。
- ・県民が相談窓口を認識できるよう、長野県薬剤師会と連携し、治療と仕事の両立支援に関する相談窓口を記載したカードを薬局で配布。



### ③ 骨髄等提供の推進

- ・若年層の登録の増加を目指し、スポーツイベントでの啓発や高校生、大学生へ啓発を実施。
- ・ドナー候補者の提供辞退を防ぐために、骨髄等提供時のドナー等に対する市町村助成金の一部を補助（ドナー17人、ドナーが所属する事業所9か所に対して補助）。



## 7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	難病相談支援センター及び保健福祉事務所における患者支援件数（相談・交流・研修等）	R3年度推移	↗	R4年度推移	↘	達成状況	達成
特定医療費申請時等の相談窓口の案内や、県ホームページでの周知の結果、相談窓口の認知が広がり、コロナ禍であったが、電話やオンライン等の手段を用いた相談件数も多く、総相談件数は前年度並みで推移した。							
指標②	難病患者等ホームヘルパー養成研修受講者数（累計）	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	未達成
オンライン形式とし、コロナ禍でも参加しやすい研修としたが、目標には届かなかった。受講者のアンケート等を基に、より参加しやすい研修とする必要がある。							
指標③	対象人口千人あたりのドナー登録者数 ※対象人口（18歳～54歳）	R3年度推移	→	R4年度推移	↗	達成状況	達成
ドナー登録には年齢の上限があることから、若年者への啓発を継続して実施してきた。また、関係者等の協力のもと、移動献血車によるドナー登録会も継続して開催されたことにより、目標を達成。							

## 8 今後の事業の方向性

### (1) 令和4年度の取組実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、難病患者の感染や療養生活、治療等に対する不安が多くあったと想像され、相談先が活用されている状況であった。新型コロナウイルス感染症が感染症法による5類に移行された後も、引き続き、患者の不安や孤立に対するきめ細やかな支援が必要である。
- ・循環器病対策では、疾病に対する理解や関心を高めるための啓発活動を実施したが、今後も継続的な啓発活動が必要。

### (2) 翌年度以降の事業改善の方策

- ・患者や家族等の療養生活における不安等への支援を充実するため、難病医療生活相談会等の機会を充実していく。
- ・循環器病の普及啓発を継続しながら、病期に応じて質の高い医療が提供される体制の整備に向けた取組についても、関係者や関係機関等と連携し、進めていく。

事業名	<b>難病及びその他疾病対策事業</b>	部局	健康福祉部	課・室	保健・疾病対策課
-----	----------------------	----	-------	-----	----------

細事業 No.	細事業名		R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	<b>難病対策推進事業</b>		2,604,105 千円	2,723,002 千円	2,862,230 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	特定医療費助成事業	直接	・指定難病の治療に係る医療費の自己負担分（患者一部負担額を除く）の公費負担 支給対象16,396人（令和5年3月31日現在）		
2	特定疾患治療研究等事業	直接	・特定疾患・先天性血液凝固因子障害等の治療に係る医療費の自己負担分の公費負担 ・特定疾病の治療に係る医療費の自己負担分（患者一部負担額を除く）の公費負担 支給対象119人（令和5年3月31日現在）		
3	難病特別対策推進事業	直接委託	・難病診療連携コーディネーターの配置【委託先：信州大学医学部附属病院】 ・全国の難病医療ネットワークへの参加、在宅難病患者の一時入院の調整 ・在宅療養の重症難病患者の一時入院に係る病床確保協力金の支給 コーディネーターの配置、入院調整3人、協力金の支給5件		
4	骨髄提供希望者登録推進事業	直接補助金	・関係団体と協力した普及啓発活動の実施 ・骨髄等提供時のドナー等に対する市町村助成金の一部補助 啓発企画の実施3回、市町村の申請件数18件		
5	遷延性意識障害者医療費給付事業	直接	・遷延性意識障害者の治療に係る医療費の自己負担分の公費負担 支給対象4人（令和5年3月31日現在）		
6	療養生活環境整備事業	直接委託	・難病相談支援センターの設置運営【委託先：信州大学医学部附属病院】 ・電話・面談・訪問等による相談支援、患者会支援等の実施 相談件数6,344件		
7	在宅難病患者コミュニケーション支援事業	直接	・在宅難病患者への療養生活支援機器（意思伝達装置等）の貸出 ・難病患者支援者への機器等の取扱いに関する研修の開催 機器の貸出17件、研修会の開催2回参加者延93名		

細事業 No.	細事業名		R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
2	<b>その他疾病対策事業</b>		76 千円	674 千円	367 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	生活習慣病対策推進事業	直接	・クリティカルパスを担う若手医師の育成等を目的とした研修会の開催 研修会開催1回		
2	アレルギー疾患対策推進事業	直接	・アレルギーに関する医療の現状や課題把握、対策の検討を目的としたアレルギー疾患医療連絡会議の開催 アレルギー疾患医療連絡会議開催1回		
3	循環器病対策推進事業	直接	・効果的な循環器対策の検討に向けた協議会の開催 ・疾病の正しい知識の定着、治療と仕事の両立支援等の普及啓発を実施 協議会の開催1回、啓発企画実施2回		